

# 駅をはじめとした公的な場の「ひとり空間」

“A Space for One Person” in Stations and Other Public Places

佐々木あかね SASAKI Akane 2018年入学 | 工業設計学科 Department of Industrial Design

分類: 卒業研究

作品/論文: 作品

制作年度: 2021年度

課題概要: 模型



図1 西鉄福岡(天神)駅改札内待合スペースを想定した最終提案

都市部では多くの場所でさまざまな人と空間を共有する場面が見られる。そうした中、コロナ禍を経て「自分」と「他者」という存在の再認識や気軽に人に会えない中で「ひとり」の時間の過ごし方について改めて考えた人も少なくないだろう。都市部の公的な場での「ひとり」の気分転換や休息では、カフェ等の有料の場や広場・公園等のリフレッシュのために目的的に行く場所が挙げられるだろう。一方で、日常生活の流れの中でもっと気軽に快適に物理的あるいは精神的に「ひとり」で過ごせる場を追求できるのではないかと考えた。

そこで「個室や仕切られた空間」または「集団や組織から（一時的に）離れている状態」をいずれも「ひとり空間」として定義し、「ひとり空間」のデザイン研究によって「ひとり」で過ごす際の公的な場の快適性や親和性の向上を目的とした。

文献調査やフィールド調査を通じて、「目線の合いにくさ」「整然とした配置」「利用傾向別にする」などがより気軽に快適な「ひとり空間」に必要な要素ではないかと推察された。

これらを踏まえ、提案する「ひとり空間」のコンセプトを「気分に合わせて選べる「ひとり空間」」とし、より提案のイメージが深まるよう「西鉄福岡(天神)駅の改札内待合スペース」をデザイン対象とした。そして、対象スペースを利用の仕方ごとに「ちょっと」「(人に)まぎれて」「ゆっくり」「立ったまま」の4つのコンセプトを立ててゾーニングしたのち、コンセプトと先述の要素を踏まえて各ゾーンのファニチャーや配置をデザインし最終提案をおこなった。

駅などの日常生活の中で半ば必然的に利用する場所に提案のような「ひとり空間」を設けることで、より気軽かつ快適に「ひとり」の時間を過ごせるとともに公的な場の価値も高まると考える。

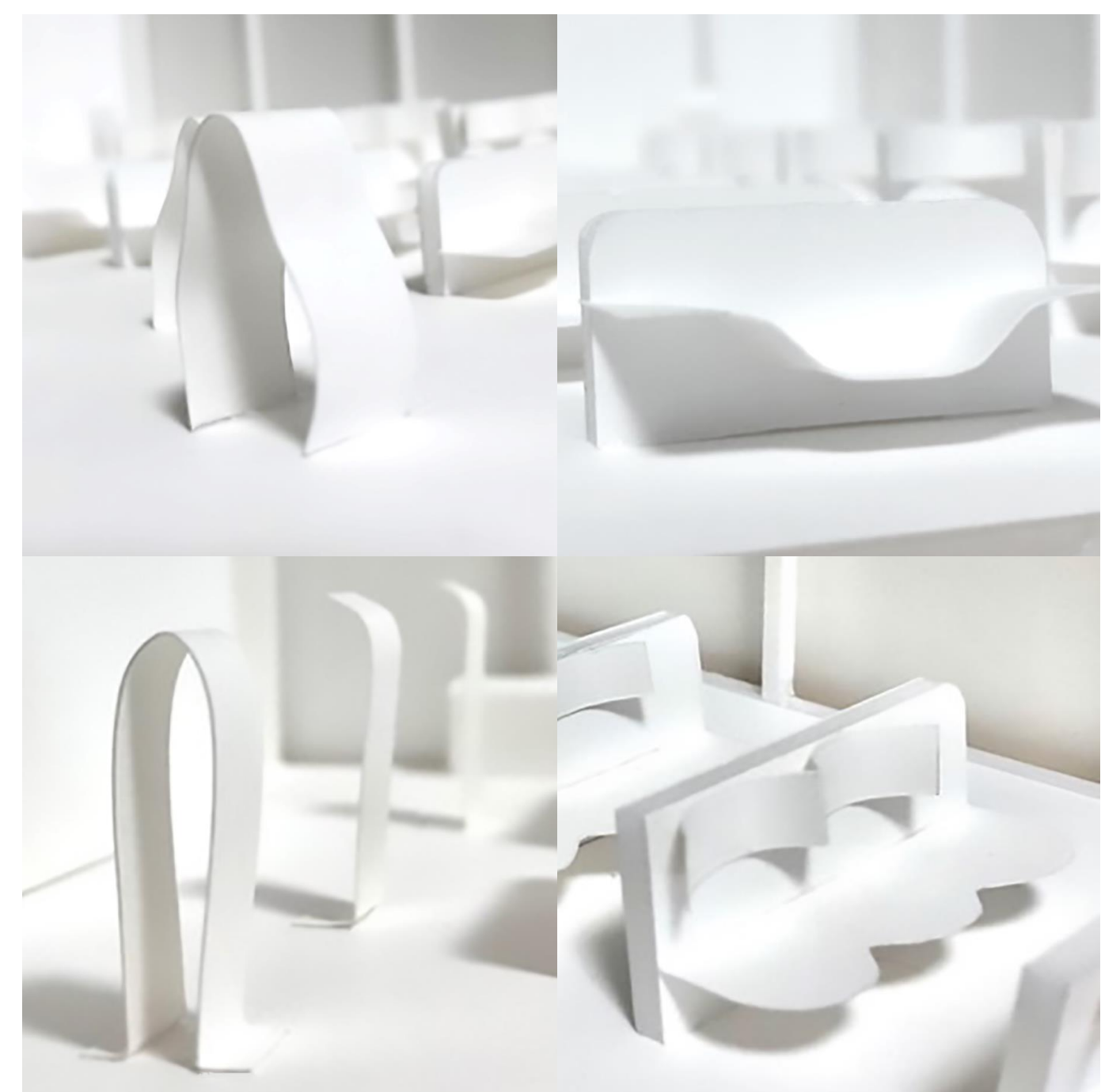


図2 各ゾーンごとのコンセプトに沿ったファニチャー (左上から時計回りに「ちょっと」、「まぎれて」、「ゆっくり」、「立ったまま」)